

令和４年度 第１回和水町総合教育会議 議事録

1 日時 令和４年１２月２６日（月）
午後３時００分から午後４時２０分まで

2 場所 和水町役場本庁舎 ３階 大会議室

3 出席者

（構成員）	和水町長	石原 佳幸
	教育委員会	教育長 米田 加奈美
		教育長職務代理者 坂本 浩暉
		委員 陶山 三千也
		委員 藤井山 京子
		委員 松村 ともみ

（構成員以外の出席者）

石原総務課長、倉掛総務課参事、藤金総務課主事
下津学校教育課長、永田学校教育係長
池上社会教育課長、鍋島社会教育課長補佐

（傍聴者） ０名

4 会議内容（開会）

○石原総務課長

それでは、定刻になりましたので、まず、挨拶から始めたいと思います。御起立をお願いいたします。

皆様、こんにちは。

御着席ください。

それでは、ただいまから令和４年度第１回総合教育会議を始めさせていただきます。

司会、進行を務めさせていただきます総務課の石原でございます。よろしくお願いいたします。

また、本会議に当たりましては、皆様方の活発な意見交換、そして、会のスムーズな進行に御協力賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

また、本会議は、和水町総合教育会議設置要綱に基づきまして、会議を公開としたしております。

会議を傍聴される方につきましても、傍聴する要綱によりまして、幾つかのルールを守っていただく必要がございますが、本日は傍聴される方がいらっしゃいませんので、お配りしました次第の裏に要綱をつけておりますので、そちらで御

覧いただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に則りまして、石原町長から御挨拶から申し上げます。

○石原町長

皆様、こんにちは。

町長の石原でございます。

本日は、お忙しい中、令和4年度第1回和水町総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方におかれましては、日頃から教育行政の推進に多大なる御尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、この総合教育会議は、御承知のとおり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき開催しており、教育を行うための諸条件の整備、その他地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策について協議、調整を行うものであります。簡潔に申し上げますと、町部局と教育委員会が方向性の共有を行い、教育施策の推進を目指し取組んで行くものでございます。

本日の議題は、小中学校の現状と課題、教育環境及び地域クラブ活動への移行についてとしております。

限られた時間ではございますが、皆様方におかれましては忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○石原総務課長

ありがとうございました。続きまして、米田教育長より御挨拶をお願い申し上げます。

○米田教育長

皆様、こんにちは。

教育委員の皆様には、教育委員会会議に引き続き、よろしくお願いいたします。

先週、各学校では、後期前半が終了したところです。昨年度は行事等の開催が難しかったのですが、今年度は文化祭や駅伝大会など、各学校で工夫して行っているところです。また社会教育関係も、コロナ感染防止をしながら取組んでいるところです。

現在校区ごとに小中一貫教育を進めておりますが、今後の教育環境を長期的にどのようにしていくかということの話し合いにもなるかと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

本日はお世話になります。

○石原総務課長

ありがとうございました。

会議の開催に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。

1 点が、ホッチキスで止めた会議次第、こちらには委員の名簿、会議の設置要綱、傍聴要綱等をひとまとめにしております。

もう 1 点が、本日の協議調整事項がまとめられました和水町総合教育会議資料になります。この 2 つに沿って、本会議は進めてまいりますのでよろしくお願いします。

早速ですけれども、それではただいまから、協議調整事項に移らせていただきます。まずは、資料の（１）、小学校の現状と課題についてとなります。会議資料は、１ページ目から 22 ページまでとなりますので、説明は教育委員会よりお願いいたします。

○米田教育長

それでは、私から大きく 3 点について御説明します。

まず、小中学校の現状と課題です。

まず、菊水小学校ですが、今年度で統合 3 年目を迎えます。統合前は少人数学級から多人数になることへの学習の不安や友達関係を心配しておりましたが、統合前からの合同学習の取組みもあり、3 年目を迎えた今年度は、多くの児童が現在の状況を当たり前の状況と捉え不安なく生活をしており、異学年間の仲もよい状況です。

新たな課題として、不登校傾向、不登校児童、特別な支援が必要な児童が増加しており、より外部機関との連携が必要となってきましたが、不十分ですので学校としては、常時子どもたちの心のケアができる心の相談員の配置や、適応指導教室の設置を望んでおられます。

また、コロナ感染症対策のため、なかなか保護者同士や保護者と教員が一緒に活動する機会の確保が不十分な状況です。ちなみに、次年度は特別支援学級が 1 クラス増の予定です。

次に、三加和小学校です。三加和小学校は統合 2 年目です。職員の入れ替え等があり、小中乗り入れの授業の意識や理解ができつつありますが、小中合同の研

修や行事を通して職員間の連携も保たれており、今年度は小学校職員の未配置の対応として、中学校からの乗り入れ教科を増やし児童理解も進みつつあります。また、運動会など合同の事業を実施することで、PTAの組織の連帯感も深まっています。

新たな課題ではありませんが、小中9年間でクラス替えがありませんので、競争心や新しい友との出会いで刺激を受けて、自己を伸ばす機会が他校に比べると少ない状況です。今度の6年生は、29名中4、5名が三加和中学校以外の進学を視野に入れており、9年間変わらない人間関係や学校の問題が考えられます。

次に、学習面です。昨年度の県学力・学習状況調査の結果です。ピンクのほうの前年比を上回っております。学年によって差はあり、現在の小学校5年生、中学校1年生は、県平均を下回っている状況です。

これは今年度の全国学力・学習状況の結果です。

対象は小学校6年生です。見てお分かりのとおり、全て県・全国平均を上回っております。これは中学3年生を対象にした調査結果です。これも全ての教科で全国・県を上回っている状況です。

これは小学校6年生、それから中学校3年生対象の質問紙の結果です。1段目が町、2段目が県、3段目が全国の割合です。

小中ともに、当てはまるが、国・県と比較して高かったものの1つは、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問です。2つ目は、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、これも小中共に高い状況でした。

これは小学校は県と比べると、当てはまる割合が低かったものですが、中学校は、国・県共に高い質問です。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という項目です。なお、地域の行事に参加していますかは関係ありません。

中学校は国・県共に高かったのですが、小学校は、国・県共に低かったものの1つとして、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問項目がありました。

次に、小中共に、国・県と比較して低かったものです。まず、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」、2つ目が、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」、これは国・県と共に、小中学校は低いということでした。

学力についての対応状況です。

小学校では、より個に対応できるように、特別支援教育支援員の活用や学習形態を工夫したり、教科を絞って基礎基本を定着させたりする取組を行ったりして

おります。また、家庭学習の習慣化に向けて、低学年からの見取りを徹底させたり、児童が主体的に学習に取り組み、「分かった」「できた」を実感する授業の改善を行っております。

中学校では定期テスト前に集会を行ったり、「テストがんばるプログラム」を実施して、自分で計画的に学習できるよう工夫されております。また、計画的に学力充実の時間を特設し、学習時間を確保したり、確認テストを行ったり、家庭学習にも反映できるようにしております。なお、問題を苦手としている生徒に対しても、放課後に個別に時間を設定して、自信を持って翌日の確認テストに臨めるような手立ても行っております。

次に、いじめ・不登校の状況です。

いじめ認知件数は増えておりますが、一番大事なことは、いじめを見逃さないことだと学校には言っております。未然防止も大切ですが、早期に発見して対応することも大切です。

不登校は、年々増えてきている状況です。要因は様々ですので、個に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの外部専門家や、福祉部局と連携したケース会議も行いながら取り組んでおります。

これは昨年度の心アンケート調査結果です。中学校はいじめられたことがあるというのは、ゼロとなっておりますので、ゼロであることを保護や生徒等にも知らせ、見逃していないのか確認するように伝えております。

次に、対応状況です。小学校では個に応じて関係を作り、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの外部専門家や福祉部局と連携した会議も行いながら取り組んでいるところです。中学校でも同様にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの外部専門家や福祉部局と連携したケース会議を行いながら取り組んでおります。小中共に定期的に推進委員会等を開き、情報共有を行って対応していただいております。

いじめ防止については、小学校ではチェックカードを通して振り返らしたり、懇談会で保護者に状況等を伝えたりしております。中学校では子供たちへの意識付けや相談しやすい環境を工夫していると聞いております。

次に、体育についての結果です。

県基準値と比較して、低いものを挙げております。菊水地区では反復横跳び、三加和地区ではボール投げ、上体おこしが共通して低くなっております。また、総合評価を見てみますと、このような結果が出ました。下学年男子、このような状況です、令和3年度と比べています。これは、女子です。Aの割合が低くなっていることが分かりました。これは上学年、4・5・6年生の男子です。逆に上学年はAの割合が増えている状況です。これは、4・5・6年生の女子です。女

子はあまり変わらないような状況です。これは中学校の男子です。昨年度と比べると、Aの割合が少なくなっています。これは女子の結果です。

次に、体力についての対応状況です。小中学校共に授業だけではなく、中や昼休みなど様々な場を利用して、体を動かす機会を設定しております。

次に、肥満度の割合です。この表から見て分かりますように、小中共に全国平均を大きく上回っている状況です。

対応状況です。体力の対応状況と重なりますが、体を動かす場や機会を工夫しております。また、健康診断の結果状況を、保健だより等で知らせたりしております。中学校では、保護者による送迎も増えてきておりますので、学校では自力登校を呼びかけたり工夫をされています。

次に、視力についてです。1.0未満の割合の割合は、全国と比較すると低いですが、小学校は年々増えてきている状況です。

対応状況としては、各校、定期的に検査を行っておりますので、その結果を保護者に通知し、受診等を促しているところです。また保健だよりや掲示するなど啓発も行っております。

う歯保有者率のグラフです。小学校です。10年前からの推移を見てみますと、毎年減少傾向にありましたが、令和4年度は若干増加しております。これは中学校です。う歯保有者率は小学校に比べて少なくなっていますが、永久歯への生え変わりのためだと思われます。

う歯以外の歯及び口腔の状況の推移です。歯列咬合の要観察、要相談となった児童が、平成28、29年度に急増し、平成30年度からは約40から47%と高い割合で推移しております。歯垢付着、歯肉炎の割合は、去年に比べて増加しております。中学校でも、歯列咬合について要観察、要相談の生徒の割合が平成30年度から急激に増加し、小学校よりも高い50%前後を推移しております。ただ、歯垢付着、歯肉炎の要観察者の割合は横ばい傾向にあります。

対応状況としましては、各校、視力検査と同様に定期的に歯科検診を行っており、その状況等を保健だより等で家庭にも知らせております。また、学校では歯垢染色剤を使って歯の染め出しを行ったり、昼休みに個別ブラッシング指導を行ったり、保健委員会が集会や放送等で歯磨きの重要性の呼びかけや歯に関するクイズなどの掲示など作成も行っております。

以上です。

○石原総務課長

ありがとうございました。

それでは、この件に関しまして、まず、石原町長から御意見をお願いいたします

す。

○石原町長

幾つか質問があるのですけれども、1つずつでよろしいですか。

まず、菊水小学校が統合して3年ですかね。不登校の人数も増えてきているようのですけれども、統合との関連があるのか。それと、新型コロナと同じ時期と重なっていると思うのですけれども、何かその辺の関連性とか、関係ないのか、ちょっといろいろ教えていただきたい。

○石原総務課長

じゃあ、委員会からお願いいたします。

○米田教育長

ちょうど開校したときが、もう休校の状況だったので、なかなか子供たちが一緒にいろんな活動をするというのは難しい状況でありました。ここに書いてありますように、うまくなじめずに不登校傾向になっているというところで、やはり人間関係というところで、不登校にもちょっと絡んでくるのかというのは感じております。

以上です。

○石原町長

ちなみに、三加和小が9年ですかね。統合してすぐの頃はそうだったけれども、今は改善したとかそういう傾向でございますか。

○米田教育長

不登校に関してですか。

○石原町長

はい、そうです。

○米田教育長

その資料を持ち合わせておりませんので。

○石原町長

ああ、はいはい。

○米田教育長

また次回にします。

○石原町長

先日の議会でお話が出ていたのですけれども、居場所づくりを町で進める必要はないのかということで、荒尾市の例が多分出ていたと思うのですけれども。それについて教育委員会として、何か議会も踏まえて話し合いを持たれたのか、これから話していくのか。それともそういう場をそもそも作るつもりはないのか、あるのか。その辺とかお話を聞かせてください。

○米田教育長

今年から不登校学習支援員の体制づくりはしました。実際は菊水小は未配置のままで、まだ状況は進んでないのですけれども。一応、今年からそれを体制をしましたので、その状況を見ながらどういうふうにしていくのか考えたいと思いますけれども。今のところは不登校学習支援員で、対策をしていくということで、今日も先ほどの会議でも教育委員さんへの御説明をしたところでした。

○石原町長

多分、家から出ない子を、どこかの居場所に連れ出そうみたいなお話だったと思うのですけれども。今、12名ですか、当然全国的な問題だと思うのですけれども、こういう取組とかができるのかとか、そういういろんな手法を考えながら、居場所づくりを進めていただければと思いました。

以上です。

○石原総務課長

ありがとうございました。

ほかに委員の皆様方からも、この1番の件につきまして何か御意見等がありましたらお願いいたします。

○石原町長

続けて、私のほうから、8ページですかね。中学校の学校外の学習、塾に行っているとか行っていないのかパーセント的なことは押さえられていますか。今、大阪市の1万円の補助金の話があって、子供たちに何でも使ってくださいという話があって、塾に使うとかいろいろなことに使ってくれという話があったので。

あと、行政のほうで、過疎地域などは、特に塾を行政で用意したりという地域も、球磨のほうですか、あったりするのですけれども。その辺の声とかあるのかどうかとお尋ねしました。

○米田教育長

この後の教育環境でお話しますけれども、地域ふれあいというのは、町で作っていますので、そこでは国・数・英を対応して、子供たちが無料で受けられるシステムを町で作っています。

○石原町長

対象は、小学生ですか。

○米田教育長

中学校です。

○石原町長

中学生。

続けて、9ページのいじめ認知が、年々減ってきているのですけれども、9、4、2、ゼロと。これは、要因は何かございますか。特に、なければよかです。たまたま減ったなら。減っているのでもいいことなののですけれども、何かの対策が功を奏して、数字が落ちてきているのかなと思ったので尋ねました。

じゃあ、続けて。

○米田教育長

はい。

○石原町長

肥満の状況が出ていたのですけれども、小学校の部活の廃止から、3年目ぐらいですかね。

○事務局

小学校の部活がなくなって、4年目ですね。

○石原町長

そういうのが影響したのかなと、単純に思ったのですけど。部活等がなくなっ

て、クラブ活動に参加されている割合とか、何か分かれば教えていただきたいなと思います。むしろ、皆様に声かけをして、なるべくクラブに行っていただくように仕向けるために、活動費の補助等を町が考えるべきなのかなというのがございまして、ちょっとお尋ねしました。

○石原総務課長

委員会、何か担当からありますか。

○池上社会教育課長

小学生のどのような塾、クラブ活動に入っているのかというアンケートを取ったというところがございます。その結果がちょっと私にはちょっとまだ分かりません。意向調査はしたというようなことで聞いておりますけれども。

○米田教育長

昨年度は習い事の調査を小学校でしていますので、そういうピアノを習っているとか、どこに行っているというような調査はしております。今年はしていません。

○石原町長

中学生の2、3年生になるにつれ、塾に通っている子が多いというふうに聞くのですけれど。ここら辺というと、玉名、山鹿、大牟田とかあるのですけれども、地元にはないですね。距離があるために通えないという子たちの声があるのかないのかも。教育環境のところから出てくるそうですが、それで対応できているのであれば、全く問題はないのですけれども。アンケートの内容でそういうことがあったかどうかというのが、1つです。

あと、クラブなごみの小学生の参加の人数が分かれば。クラブなごみは、1年生から行くのですよね。

○池上社会教育課長

4年生からです。

○石原町長

全体数のうち、何%ぐらいが入っているのだよというのが分かれば。肥満と勝手につなげるわけにはいかないと思うのですけれど、部活動がなくなったことによって、そういうのが増えたのかなと思ったので、データの数値があれば教え

ていただきたいと思いました。

それと、中学校部活動についても、令和7年を目標に地域移行しなさいというような話が出ていますので、その辺についても考え方とかを示していただければと思います。

○池上社会教育課長

すぐに、数字を出しますので、しばらくちょっと。

○石原総務課長

どうしましょう。次のところでも少しはお話をされる。

○石原町長

本当ですね。すいません、じゃあ、そのときにでも。

○石原総務課長

現状とか教育環境ということで、ちょっと似たテーマがありますので、それでしたら、事務局としてはその間にちょっと調べていただいて、2番の教育環境のほうを教育長から御説明をお願いしましょうか。

○石原町長

はい。

○石原総務課長

じゃあ、それでお願いいたします。

○米田教育長

では、2番の教育環境で、まずICT教育による効果や問題点についてお話ししたいと思います。

ICTに関しましては、現在1人1台児童生徒にタブレットを貸出ししております。

小学校では、なかなか教室に入ることができない子供と教室を結んでのオンライン授業もされております。また、タブレットの活用の技能は高まってきております。

課題としては、教師自身のスキルアップが必要となること。これから、家庭へ持ち帰らせるときの環境整備が必要となってきます。

中学校では、授業の中で生徒の意見をすぐに電子黒板やタブレット等に表示することができるので、自分と他者の意見が比較しやすく、生徒の考えが広まっています。また、タブレットを使った個人用アンケートなどは、集計時間が短縮になり有効となっています。

課題としては、小学校と同様、家への持ち帰りをしてないので、活用が不十分であることと、学習目的以外の活用してしまう生徒が出るため、活用時間を授業中に制限しているという状況もあります。

次に、英語教育についてです。

幼児期から行っていますので、英語への抵抗感が減り興味関心が高まるのではないかと考えられます。町の会計年度任用職員として英語助手を任用しておりますので、英語専科が不在でも担任と連携して授業をしています。ネイティブの音声を聞く機会が多いということは、小学校の外国語活動、それから英語活動へスムーズな移行・つなぎになるので、幼児期からの英語教育は効果があるのではないかと思います。ただ、昨年度の6年生による調査の結果を見てみますと、「英語の勉強が好きですか」とか、「これまで学校の授業以外で英語を使う機会があったか」という問いに関しましては、県よりも低い状況になっております。

中学3年生の英検3級相当の受験率です。今年度は予算決定が遅かったため、学校への準備、それから周知が不十分で昨年度よりも受験率が下がっています。なお、英検に関しては、県は3年生に対しては3分の1の補助を行っております。町では、3年生に対しては3分の1補助。1、2年生に対しては、3分の2補助しております。しかし、保護者が3分の1を負担するために、なかなか学校でも受験を強制できない状況だということを理解しています。3級相当の取得率は、県の平均を大きく上回る状況です。

和水町は小中一貫教育を行っておりますので、そのよさと課題についてお話をします。

まず、分離型の菊水地区の良さについてです。

小中学校では、中学校卒業時の目指す子供の姿を、小中で共有されています。その共通の目的を持って各小中で教育実践をし、そして成果を定期的に合同校内検討で確認しているそうです。また、時期を絞って小中合同ボランティア活動や挨拶運動も行っております。中学生が先輩として、6年生に向けてメッセージを送ったりもしています。

課題としては、学校が離れているため、乗り入れ授業をするにも、移動時間等を考慮しなければいけませんし、打合せの時間などの調整がなかなか難しい状況です。

併設型の三加和地区は、9年間多くの職員が子ども達を見守ることが可能で、

課題も共有しやすい状況にあります。また、読み聞かせや挨拶運動など実際に小中の児童生徒が、一緒に時間を共有して過ごすことが容易になります。

課題としては、9年間、教育施設・環境面に変化があまりなく、子供たちの人間関係が固定化しがちです。そこで、中学校では進級後、生徒や生徒会を中心に企画・運営の機会を設定したり、新たな視野を持たせる工夫も行ったりと自己の殻を破る機会を、意図的に設定して取組んでおられます。

次に、社会教育関係です。

町では中学生を対象に、地域未来塾を開催しております。今年度から英検準備クラス、クリエイティブデザインコースを新たに作りました。クリエイティブデザインコースに入った理由として、三加和中で企業体験を行っているので、チラシづくりに役立てたいと言っていた子もいました。町の祭りなどのイベントをする際にチラシを子供たちに任せるなど、子供たちにもっと参画させてはどうかと課内で今話をしているところです。

次に、放課後子供教室です。小学校低学年を対象に、放課後地域の方々の力をお借りして行っております。なお、学童に行っていない子の希望者が活動しているということです。

次に、今年度の文化継承として、菊水小は毎年ボランティアガイドを行っております。次年度は、江田船山古墳発掘150周年です。現在、子供たちからどのような取組をしたいのか、アンケート調査を行っているところです。子供たちのアイデアを生かして取組むことで、郷土を愛し誇れるようになってほしいと課では考えております。

次に、手漉き和紙体験の利用状況です。町内からも今年度は多くの方が利用されております。そのほかにも、このように多くの方が利用またはエントリーをされております。

次に、働き改革についてです。教職員の時間外在校時間等の状況を示しております。令和元年、2年、3年度は新型コロナウイルス感染症対策で行事が制限されておりました。月45時間を超えた人が多くなったのは、今年度は少しずつ行事が戻ったことがあります。一番大きいのは先生が未配置だということです。小学校の2校とも専科がない状況ですので、その分、教材研究の時間が長くなっていると考えられます。

中学校は部活動があるため、小学校と比べると月45時間を超えている割合は大きい状況です。部活動が約3割の理由として占めています。各校では、働き方改革を推進するよういろいろなことに取組んでおられます。定時退勤日を設定したり、専門的人材等の活用をするようにしています。

今年度はICTを活用し、保護者アンケート等は安心安全メール等を通して行

うことで集計が自動的にできる、かなり負担軽減となっております。また、夜間や休日の保護者から学校への連絡にも、Gメールを活用して対応されている学校もあります。また、教材準備を効率化するために、道德等の挿絵等を繰り返し使えるように整備されている学校もあります。

次に、委員会としての取組です。委員会では、人材等をこのように任用しております。不登校学習支援員には、先ほど申しましたように、今年度新たに任用しております。また、キャリアプランニングアドバイザーや地域学校協働活動指導員、ICT支援員を任用し、教育活動の中で先生や子供たちのサポートができるようにしています。

また、今年度は地域の方を対象にボランティア募集を行い、多くの方から協力いただけることが分かりました。先日、顔合わせの会を行ったところです。双方がマッチングできるようになればと、今考えております。そのほかにも、業務効率化のため公務支援ソフトを予算化し、次年度から本格的実施ができるように準備を今進めているところです。

また、長期休業中に学校の閉庁日を設定し、保護者にも通知して取組んでいます。また、各校から出されたアイデアや超過勤務者の状況をまとめて、校長会議を通して紹介を行っています。

○石原総務課長

ありがとうございました。教育環境についての説明が以上となっております。どうでしょうか、先ほどの質問がありますけれど、まずはこれについて、町長から何か御意見がありましたらお願いいたします。

○石原町長

僕は基本的なスタンスとしては、手が届いてないところがあればお助けしたいなというのが前提でございます。まず、タブレットが1人1台行き渡ったということのお話なのですけれども、タブレットを使った具体的な授業は、何か教えていただけますか、具体例を。

○米田教育長

例えば、小学校低学年だったら、アサガオの観察のときに写真を撮って、それを観察日記として書いたり。また、音楽でなかなか笛が吹けない状況とかもありますので、家でタブレットを持ち帰って、その笛の様子を録音してきたり。

○石原町長

ああ、なるほど。

○米田教育長

あとは料理とか写真で撮ってきたりとか、そのような家庭でも活用もされています。

学校ではそれぞれの子供たち、例えば道徳の時間に自分の考えを書いたやつが、一斉に大きな黒板に出ますので。友達の意見がどういうふうになっているかというのが一目瞭然で分かるような、そういう取組もされています。

○石原町長

具体的なアプリケーションとかはあるのですか。教育化といったようなのが、使われているのですか。

○米田教育長

いろいろ問題とかも入っていますので、ずっと低学年のところから、自分でチェックしてどんどんやるとか、進んでいけるようなそういうアプリも入っています。

○石原町長

すいません、何も知らなくて。宿題とかも家に持って帰ってデータで送るのかなとか、勝手にイメージしていました。タブレット上で宿題をして、それが授業で集計したりできるのかと、長期休暇のときなどにですね。

○米田教育長

今、W i - F i 環境が 1 0 0 % ではないので、そこが一番の課題です。やはり、学校が全員それを宿題で、例えば、何か W i - F i に関係することであれば、やはり環境が整えてない状況では難しいので。

今、W i - F i 環境が整っているかどうかの調査をして、やはり 9 割ぐらいは持ってらっしゃるのですけれども、残り何名かは持ってらっしゃらないので、そこを次年度の予算として、例えばルータの貸出しをするとかそのようなところを含めて、来年から家庭でもできるような体制を作っていこうと考えています。

○石原町長

まさに、そこをお願いしたいと思っています。残り 1 割の方々が、そういう環境のために使えない子のためにです。

あと、英検の授業とのお話が出ていましたけれども、3分の1が個人負担ですか。ちなみに全額補償をしている団体の事例とかあるのですかね、県内で。

○米田教育長

玉東はしている。

○石原町長

ああ、なるほど。

○米田教育長

来年もこちらでは、予算要求は全額町でできるように、保護者負担がないようにできればというところで予算は上げております。

○石原町長

当初予算。

○米田教育長

当初予算です。

○石原町長

後日、打ち合わせがある予定だったのかな、ですね。それと、ポケットWi-Fiの話もですね。

○米田教育長

はい、そうです。

○石原町長

了解しました。

○石原総務課長

さっきのクラブなごみ分とか、答えてもらいます。

○池上社会教育課長

クラブなごみですね、令和4年度の小学生が参加した人数ということでございましたけれど。クラブなごみに、種目が7種目ございまして、それで参加した小

学生の人数が、１２２名でございます。先ほど言いました７種目でございますので、ダブっているというところもございますけれども、これも全部がなごみの小学生を分母としまして割りますと、なごみの小学生の数が４４２人ぐらいおったということで、１２２人を分子に当てますと、約２９％の小学生がクラブなごみに参加しているという形でございますので、参考にいただければありがたいというところでございます。

○石原町長

活動の頻度と、参加料を教えてください。

○池上社会教育課長

鍋島からお答えします。各種目ごと、年会費それから月会費が違っております。１つずつ申し上げていきます。

○石原町長

幾らから幾らで。

○鍋島社会教育課長補佐

いいですか。

○石原町長

はい。

○鍋島社会教育課長補佐

おおむね年会費は、大体３，０００円。

○石原町長

年。

○鍋島社会教育課長補佐

年会費です。月の会費は５００円から、高いところでは４，０００円という形になっております。クラブなごみに入るための入会金につきましては、年間６，０００円は、別に。

○石原町長

活動は週何回とかございますか。

○鍋島社会教育課長補佐

週1日から2日が多いようです。

○石原町長

クラブなごみは、お子さんからお年寄りまで加入できるクラブだと思うのですけれども。

○鍋島社会教育課長補佐

はい。

○石原町長

その4年前の小学校の部活動の廃止のときに、何か特別な対応されたとかあるのですか。例えば、入会金をいただかなかったとか、全く何もしてない状況ですかね。

○池上社会教育課長

すいません、私、ちょっと勉強不足でそのあたりはちょっと。

○石原町長

要はさっきの続きで、肥満の子が増えてきたと。運動していないからじゃないかなと。だったら、もっともっとクラブなごみで運動を楽しんでもらえればいいのかと思って。それのお手伝いとして、例えば小学生の年会費を、町が負担するよとか。なるべく保護者の方も出やすいような環境づくりに向けて、何かいいアイデアがないかなと思うので、ちょっとお話をしたとこでした。

○池上社会教育課長

そもそもなごみクラブのおおもとが、だっでんクラブが元でございまして、三加和地区では70%の小学生が加入していたというようなところで。合併してから、その後が菊水地区のほうで15%程度だったというところでスタートしておりますので、なかなか難しいところがあったであろうと思います。

でも、今、町長がおっしゃられましたように、肥満解消のために、町が関わってそうならないようにやっていくところも反省点ではございますので、今後、そのようなことで考えていきたいと思っています。

○石原町長

肥満解消までは要らんけれど、要は運動する場をもっと入りやすい場づくりを学校側だけじゃなくて、社会教育としても取組んでいく、町全体で取組む必要があるのではないかと。そのきっかけとして、肥満の数値が出ていたので少し思ったところでした。

それで中学校の部活、後で出てくるけれども。それにも関連してくるので、その辺を総合的に小中学生の加入については、いろいろ考えていく必要があるのではないかなと思います。

○鍋島社会教育課長補佐

ありがとうございます。

○石原町長

1つだけ聞いていいですか。地域未来塾の先生方は費用が発生するのですか。

○池上社会教育課長

はい。します。

○米田教育長

子供たちは無料です。

○石原町長

無料になる。

○米田教育長

はい。

○石原町長

じゃあ、講師料はかかる。

○鍋島社会教育課長補佐

訂正が1つございますので。

○石原総務課長

じゃあ、どうぞ。

○鍋島社会教育課長補佐

先ほど、課長が申しました、クラブなごみの小学生の加入数ですが、失礼しました。先ほど122名と申し上げましたが90名の誤りでした、失礼しました。したがって、加入率は21%になります。

なお、活動している種目を申し上げますが、わくわくスポーツ教室、バドミントン、少年野球、船山太鼓、この4種目において、小学生を指導しているということです。大変失礼しました。

○池上社会教育課長

水泳も。陶山先生が指導していただいている水泳も、欠席者はございますけれども一生懸命泳いで、泳げない子が泳げるようになっておりますのでお知らせしておきます。

○石原総務課長

ありがとうございます。まだ、町長、ほかにあったら、どうぞ。

○石原町長

30ページですね。資料館の話なのですが、肥後民家村に歴史民俗資料館がありまして、結構ひどい状況だと思います。その辺について、教育委員会とかで話合われているとか、今後どうするのかとか。船山古墳も整備を進めるのか、そのままでいくのか。ICTを使って上手にできるのではないかと、独りで思っていたのですよね。まず、民俗資料館について、どういうお話が出ているか聞かせていただいていいですか。教育課じゃなくて、教育委員会で課題として上がったりしている。

○米田教育長

課題としては上がっていません。

○石原町長

上がっていない。

○米田教育長

ただ、課内では、やはり民家村、この前にボランティアガイドをしたときに、

私も民俗資料館に行ったのですけれど、やはり十分な使用状況ではなくて、壊れているところもありますので。そこは考えないといけないねというのは、ちょっと課では話をしておりますけれど、具体的にというのはございません。

○石原町長

田中城も、船山古墳の文化遺産というのがございまして、整備にかかる費用が多大なので、お金がかなりかかっていると。でも、見に来てくれているお客さんは、年々もちろん減ってきていて、この辺をどうにか、例えば旅行会社にお話して見に来てもらうとか、そういう活動をしていかないと、お金はかかるけれど見に来る人がいないという状況が続くので。文化施設についても、やっぱり教育委員会のほうで、教育委員さんたちと話をさせていただく必要があるかなというふうに思います。学校教育だけじゃなくて、社会教育の面からも、もちろんあるですね。その辺をちょっとこれからの課題かなというふうに思います。

○坂本教育委員

いいですか。

○石原総務課長

はい。

○坂本教育委員

資料館については、当初からうちは場所がまずあんなところに何で造ったんやというのが、最初の印象でした。そのころは、まだここに住んでなかったのですけれどね。

ずっと何回も尋ねますけど、やっぱり同じあれを持ちます。どうして、船山古墳のそばに造らなかったのかと。あんなところ、あそこにああいう資料施設があるということ自体、知らない人が多いのですよ。訪問した人も、どこにあるのかという質問さえ出ない、案内板もほとんどないし。あれだけのレプリカであってもですよ、あれだけの資料が眠っちゃ、有効しないと。

だから、もしこういった運動的なもの、スポーツ的なものは目立つし、取っ付きやすいけれども。やっぱり、文化的な本当に意味のあるものというのは、やっぱり時間をかけてお金をかけて、やっぱり永久的なやつを考えるべき時期じゃないかと、個人的に思って。だから、もっとロマン館のほうに、手前のほうにどこか土地を確保して、あれはもう引っ越すというようなことあたりを、一つの町の売りにしてもいいんじゃないかなと。船山古墳と兼ねて見学をして、1つの観光と

か、その他修学旅行とかいろんなもののルートの１つに数えられるのじゃないかと、そういう考えを個人的にはずっと思っています。今後、御一考をお願いしたいと思います。

○石原町長

坂本委員、ありがとうございます。

実は僕もたくさんの方から、建て替え等のお話をいただいて。ただ、多額の費用が必要になるので、それをするためには、やっぱりリニューアルというか、ソフトのほうも、建物だけじゃなくて呼び込む仕組みづくりをした上で、建て替える。例えば、図書館と併設するとか、子育て支援の施設と併設するとか、いろんな手法があると思うのですけれども。そういう形で近辺に造るのが理想だと思うのですけれども。今日明日でできる話ではなくて、かなりたたいていって、御説明をしていかないとできないので、そこを教育委員会、教育委員さんを含めてですね、そういう御意見をいただけると、前に一歩進みやすいというふうに考えています。

と合わせて、田中城ミニミュージアムの今の入館の状況も教えていただけますか。というのが春富小学校内の１教室を使っているのですけれども、知らない人は知らないと言うのですね、年間とか月の入り込みの客が、どれぐらいかなと思うので。

○池上社会教育課長

田中城ミニミュージアムの令和４年度は、観覧者数が１１月末現在で、５６５人となっております。でも、あそこに１人シルバーさんが案内をやっているところがございますので、なかなか厳しい状況ではあります。

○石原町長

閉館日はあります。

○池上社会教育課長

月曜日が閉館日です。

○石原町長

じゃあ火曜から日曜までオープンしているということですね。

○池上社会教育課長

はい。

○石原町長

その中の団体客の割合は分かりますか。

○池上社会教育課長

ああ、そこまではちょっと数字が今。待ってくれば調べてきます、また。

○石原町長

500って、個人の積み上げじゃないと思うのですね。団体で30人来たとかというのがあると思うので。

○池上社会教育課長

障害の方もありで、やっぱりお見えになっておったのですね。

○石原町長

短く言うと、あそこに置いたのはいいけれど、それだけ知名度もなく、お客さんもあんまり入ってない。

○池上社会教育課長

はい。

○石原町長

そうしたら、次のステップを考えないかんかもしれんし。あのまましていてもいいのですが、どこに向けて田中城ミニミュージアムを見せていくかもあるので、町外の方がメインであれば違う、例えば春富小の体育館を地域歴史室にするとか、近くにいろいろやっていかなんなと思います。僕のイメージとしては、お客さんがかなり少ないという印象だったので、その辺も文化施設を総合してですね、うまいこといければなという。

○池上社会教育課長

町長すいません、休館日は火曜日でした。

○米田教育長

31ページに、田中城ミニミュージアム、何人とか書いてあります。この数字

を、ただいま課長が言いました。

○石原町長

了解しました。1つ、働き方改革のところで、専科の未配置があるというお話があったのですけれども、ちょっと詳しく。

○米田教育長

菊水小学校では、理科専科の先生が教務主任をされている状況だったのですが、5月から産休に入られた先生がいらっしゃって、その代わりの先生が見つからず、教務の先生が担任をされました。

だから、担任をされた方が教務主任もしながら担任をする。そうすると理科専科がいないので、今まで理科の4、5、6年生は、空き時間で実験の準備とかも、その理科の専科がされていたのが、もう先生たちが理科の実験の準備から、予備実験とか全部されて、その辺の教材研究が増えている状況です。

それは三加和小もです。三加和小も教務の先生が担任をされてますので、専科がいないので。だから、空き時間が小学校はないという状況です。

○石原町長

なるほど。数字に出るということですか。

○米田教育長

ではないかと考えています。

○石原町長

ちなみに、それは県が配置するのですか。

○米田教育長

県が配置です。

○石原町長

県に要望は入れているけれど、なかなか配置してくれないということですか。

○米田教育長

はい。人が見つからないのです。

○石原町長

専科だけに。

○米田教育長

専科とは限らないのですが、人がいない状況です。運営課外も途中からや々と菊水小に付いた状況です。

○石原町長

なるほど。

○米田教育長

未配置のままで進んでいく状況です。

○石原町長

それを町の教育委員会として、何か動く方法というのは県に働きかけていくだけですか。町で独自で雇うところはあるのですか、それはないですか。

○米田教育長

今考えているのが、35ページにあるように町では特別支援教育支援員とか、不登校学習支援員を今年度から付けていただいたので、その部分では大分学校も負担は減っているのですけれど。ただ、菊水小はその人もいないという状況なので。だから、不登校の対応は教頭先生、校長先生が授業されたり、話を聞いたりされている状況です。

○石原町長

ちなみに、35ページの上段の特別支援教育支援員からあるのですけれども、不登校学習支援員というのは、資格がいるのですよね。

○米田教育長

小中学校の免許を持っている人。

○石原町長

じゃあ基本的には、OBの方。

○米田教育長

そうです。

○石原町長

ターゲットということですか。

○米田教育長

実際にされてなくても、免許を持っている人しかできないという。

○石原町長

なるほど。

○米田教育長

ちょっとハードルが高いというのはあります。特別支援教育支援員は、別に免許を持ってなくてもできるのですけれど。不登校等は別室で学習を教えますので、やはり免許を持っている人ということで採用しています。

○石原総務課長

いろいろ意見が出ましたが、委員の皆様方からも、この辺で何かありましたら御意見のほうがあればですね。最後に、またまとめていろいろお聞きしますので、3点目のほうで、地域クラブ活動への移行についてという議題がありますので、そちらのほうを、まず説明をお願いいたします。

○米田教育長

それでは最後に、部活動の地域移行についてです。地域移行につきましては、ガイドラインが発表され、令和5年度から段階的に地域移行を図ることとなりました。ここでは運動部活動の経緯しか載せておりませんが、文化部活動も同様な動きになっております。

現在、ガイドラインやほかの市町村を参考に情報収集を行い、中学校の先生を対象にアンケート調査を行っているところです。今年度できることから、始めていきたいと思っています。

この表に書いてありますように、今、中学校の保護者、それから小学校5、6年生の保護者及び生徒にアンケート調査を行っております。それと、町内スポーツ団体との協議を1回行いましたが、今度は中学校の先生や管理職を踏まえて、その会議を今年度中に行おうという計画です。

それと中学校保護者対象、または今度中学校に入学される保護者の皆さんに、

部活動の地域移行についての説明会を、入学説明会や懇談会等の場所で説明を行う予定です。

以上です。

○石原総務課長

ありがとうございました。それでは、まずこの３点目の地域クラブ活動への移行に関しまして、町長より御意見等をお願いいたします。

○石原町長

地域クラブ活動の移行については、今回の１２月定例会でも何人かの議員さんに御質問いただいているところです。令和７年度中までに、移行を済ませなさいとですね。

○米田教育長

休日の部活動についてです。

○石原町長

ですね、休日の。それに向けて、まずスケジューリング的なものを示してほしいなと思います。いつのいついつに移行するよと。一番遅くて８年の４月だと思うのですが。

議会の中では、今度の令和５年の４月からでも、できるだろうとおっしゃる議員さんがいらっしゃいます。そこを教育委員会の意見は、ぎりぎりかもしれないですけど。私個人としては、なるべく早くに移行できる体制を作ってほしいというのが、１つありますのでお願いします。

それと、同じように議会のほうから、スポーツ推進計画の策定について御質問があって、今後の考え方、策定するのかないのか、何か話し合いを行われたのであればお話を聞かせてください。

○池上社会教育課長

３年後ぎりぎりまでというところも、教育長あたりと相談してから。なるべく、やっぱり町長がおっしゃられたように、早めに進めるというところは重要だなというところは決めたので、今、スケジュールの計画表の策定を今急いで早急に手掛けているところであります。

あと、県でスポーツ推進計画につきましては、平成２３年度に作成を１回しておられました。その期限が５年間というところで、５年経ったら成果を出しな

さいというようなところがあったのですけれども、成果が出ておりませんでした。県のほうに、ちょっとまたそこはお尋ねしてから、今新たに作成しないといけないものか、それともそれを練り直して改定したところでやりますかというようなところで検討するようにしております。もし作成が必要というようなところで県から回答がございましたらそれに応じたところで、また新たに作成し、またというようなところが、今課題になっているところでございます。

○石原町長

多分法的に縛りがないので、23年度に作った後に、28年で終わっていると思うのですね。形骸化していて、結局ただ作ったけれども、何もしていない5年後の見直しもしていないという状況だと思うのですけれども。今回の地域移行等を踏まえて、推進計画を作り直す必要性があるのではという御質問だったと思います。他団体の計画も少しは見たのですけれど、指針としてはあればいいかなとは思いました。ただ、その辺のことも今後話を進めていただいて考えていただければと思います。

○池上社会教育課長

はい。

○石原町長

地域移行について、現在スケジュールリングの調整をしているという話ですけれど、いつ頃お示しいただけますかね。

○池上社会教育課長

実は先週も担当者と打ち合わせをしましたが、原案的なものは、もう既にできておりますので、年内には完成ができていますと思っています。

○石原町長

じっくり練った計画にもちろんせなんと思うし。ここにあるような、南関町に情報収集して、先生のアンケート、あと町内スポーツ団体代表者会という御意見を全て踏まえた上で作らないといけないと思っています。5・6年生、中学生のアンケートとか。

そのスケジュールリングですね、全部終わっているのであれば、3月に間に合うでしょうし。その辺を急ぐばかりじゃいかんし、ちょっと急ぎ気味でお願いしたいというところでした。

○米田教育長

まず、1月上旬にそのアンケート調査の結果が、保護者の声とかが出ますので、それを踏まえて、もう一回スケジュールをどういうふうにしていくかというのを考えていこうと思います。

○石原町長

ゴールを決めて、逆算して行ってください。

○池上社会教育課長

はい。

○石原町長

例えば、令和6年の4月にスタートしますと、それに向けて逆算して、こうこうでこういう形にしましょう。それに伴う予算というのは、令和5年の12月というのがリミットなので、そこまでに金額的なものも決めるぐらいのイメージで進めていただければいいと思います。他団体とか保護者とか、学校の先生の話も踏まえた上で、和水町としてどうしていくかというのを。

○池上社会教育課長

はい。

○石原町長

休日にこだわらなくてもいいと思うので、国が示しているのは、土日をやれと言いますけれど。

○池上社会教育課長

将来的にはですね。

○石原町長

平日について、もし先回しのできるのであればやってもいいし。講師の費用が要るとか要らないとか、ニュースでは見るのですけれども。その辺の話も当然出てくるし、人材確保というのも一番大事なところでしょうし。その種目とかの話もあるし、文化とかその辺も。よろしくお願いします。

○藤井山委員

いいですか。

○石原課長

どうぞ。

○藤井山委員

今現在、和水町の中学校の部活、文化部は吹奏楽部のみですね。そして、今度移行に関しても、吹奏楽ですと指導者の問題等、なかなか難しい点があるということを、今日の教育委員会でもちょっとお伺いしておりましたが。

例えば、文化部を吹奏楽部員に限らず、新設してもいいのではないかと思います。例えば、町のコーラスグループがありますね、それと合同で活動するとか。手芸とかクラフトそういうものであれば、町の人材がたくさんおられると思うのです、指導者になられる方ですね。今、小学校でもクラブで終わっているのですけれども、将棋、囲碁部。

その内容に関わらず、やっぱりスポーツが苦手な生徒さんもたくさんいるわけですね。そういう子たちの受け皿といいますか、部活動といいますのは、やっぱり子供たちの成長につながる大切な時間だと思いますので、そういった意味で、何か文化的なものを残して、新設を考えてもいいし吹奏楽部のほうもいいですけれども、しっかりそこは子供たちのために、文化部も守っていただきたいとぜひ思います。お願いします。

○石原町長

ありがとうございます。太鼓を小学生がしていて、例えば、中学校になってもやればいいじゃないかとか、ないけんできひんじゃなくて、そういうのも団体としての意見として上がってくる可能性があるかもしれないし。まさに同じ気持ちです。

あと、部活等は、昔は僕らの頃は強制参加だったので、どの部活かに入らないといけなかったのですけれども。今の部活動の加入率は分かります、中学生の。

○米田教育長

大体4、50%ぐらい。

○石原町長

その半分の方々というのは、以前でいう帰宅部というやつなのですか。それとも、

よそでスポーツクラブとかに入られているとか、それは押さえてあります。

○米田教育長

よそで活動している子供もいます。サッカーであつたり、空手だったり、そういうのに行かれています子供さんはいらっしゃいます。

○石原町長

できれば、今度の地域移行を機会に、その4、50%の子供たちを、また戻したいというのが理想です。運動なり、文化活動なりですね。今、もう抜けて何もしていない、勉強はしているわけですから。そういうのができればいいなと思って。

○米田教育長

今度のアンケート調査でも、どのような地域クラブに入っていますかとか、どんなのがあればいいですかというような項目は設定しておりますので、そこからもどのような地域クラブに行っているかというのを把握はできると思います。

○石原町長

アンケートの中で課題とかがたくさん見えてくればいいと思います。好きな種目がないとか、金銭的に負担があるからとか、そういうのを統計として出させていただいて、そこをやっぱり潰して行って、なるべく参加しやすい地域活動に向けて取組んでいければと思っています。

○松村教育委員

私は保護者代表で、ここに出させていただいているのですけれども。今まさに町長がおっしゃられたとおりで、町の中にそういう習い事というのですか、クラブがあれば、わざわざ保護者として送らなくていいということで、共働きばかりなので。逆に町の中でクラブ移行を種目を増やしていただけると、保護者の方は大歓迎されると思います。今の状況だと、今おっしゃられたように中学校に種目が少ないので、それ以外だと町外に行くしかない状況というのがありますので、ぜひぜひお願いできたらと思います。

○石原町長

児童生徒の声と、うちの町内の団体のうまいマッチングができて、活動が広がりを、これから進めていただきたいなと思っております。

○陶山委員

学校部活動のことで出てきているところですね。私の仲間で指導者として、現場に入っているのもいるのですが、今の子供たちの現状は、当然昔は競技志向、強くせなあかん。指導者で行くとそういう評価というのが、強くすることに評価が高かった。

今の子供たちは、そうじゃなくて、仲間づくりも大切にしたい。だから、あまり競技力向上だけを目指していくと、離れていく子供たちも出てくるのだと。当然、指導者として外部から入ってくると、ある程度結果を出さないと評価されないじゃないかという、今度は指導者側の悩みも。そこでミスマッチングが出てくると、部活に入ったが長く続かない。

私はそこまで思っていなかったというようなところが出てきて、外部からの指導者をお願いしても、その辺の考え方の違いということで、どこに指導者の評価をされるのかという部分をしっかりと見据えておかないと、指導者側もそんなはずじゃなかった。逆に生徒側も、いやそこまで思わなかったというようなミスマッチングが出てくると、お互いに何かつつかれる分があるような気がします。

今お話があったことを考えて、そういうようなところが出てきているのもあるので、そういう外部から入れられる場合についても、そういう話をしっかりとやっていたらいいかなという。

以上です。

○石原町長

まさに地域のクラブで、サッカーとか野球とかで、最初は楽しむために入っていたのだけれども、競技志向になっちゃって、もう辞めますとか、そういう例もいっぱいあるので。

○陶山委員

そうですね。

○石原町長

それをクラブなごみが主体ですのであれば、どちらかというと、仲間づくりがメインかなと思うのですよね。競技志向の人は、本物のそこに行くみたいなそういう流れに、段階的に目指すところがあればいいなと思います。それと、生徒の数が、もう明らかに少ないですね。個人競技であれば可能でしょうけれども、団体競技だったらというのもあるので、その辺も計画をお願いします。

○石原総務課長

それでは、一応あげておりました協議事項につきましては3点、いろいろな御意見をいただきました。

よければ、次の5で、その他というのをあげております。事務局のほうから、特段にございませんので、こちら委員の皆様方からでも構いませので、御意見、御提案とかありましたらお願いしたいなと思います。

じゃあ、松村委員、どうぞ。

○松村教育委員

すいません、その他のその他なのですけれども、私は先ほども保護者代表で入らせていただいております、年に1回この会議で、町長さんとお話するという事で、SNSのほうで保護者の方に町長さんにお伝えしたいことはありますかというのを、いつも毎年声を聞いてお届けするというのを、少しさせていただいているのですね。

毎年のことで、今年で4年目だったのですけれども、町民の子育て世代のお母さん方の反響がすごく大きくて、今年はなごみ子育てホットルームという、町長が地域まちづくり課におられたときに、皆様とおられたあのサークルの方からも声をかけていただいて、214名の方にアンケートということで、声を集めることができました。それと合わせて、こども福祉課の補助で動いております、和水町にこにこクラブ、こちらは41名、合計255名の方に、この会議が、こういう議題でありますということでお伝えをして、声を聞くことができました。これは、私が一部限定して言うことですので、資料としては今日お持ちしてないのですが、事務局の方にお渡したので、ぜひ後で町長に御覧いただければなと思っています。

町長におかれましては、子供の子育てとか、小学校の子供について、すごく前向きに御支援をいただいているなというのは、いつも思っています。和水は学童のハロウィンパーティーや、和水のウォークラリー大会などにも、休日にもかかわらず来ていただきまして、ありがたいなと思っています。

今回は、このアンケートの内容は詳しいことは言わないのですけれども、内訳だけ言いますと、返答をいただいたのは29名で、20代の方が2名、30代の方が18名、40代の方が9名の御返答をいただきました。一番多かったのが、公園を造って欲しい、19件いただきました。進捗度をととても気にされているなということでした。先ほど、肥満度のこともあったのですけど、子供がクラブに参加しないと運動できない状況、公園など車が来ないところで遊べるところがな

いので、肥満につながっているのじゃないかという意見が、それこそ多かったです。それに比例して習い事もない、塾もない、体育もするところもないとかですね、やはり子育てする中で、時間がないので、町の中でいろんなものがあればという意見がすごく多かった気がします。

あとは、多子家庭への補助がまだ無いなという意見と、あと、学校給食でも肥満度が高いので、腹持ちのいい米にしてもらったらなという意見。あとは、学校でのコロナ対策が、過剰な部分があるという意見ですね、大人の会食はあっても、子供はまだ黙食をしているとかですね。

あとは、座談会をして、ぜひ子育て世代の女性の声が町に届くというのが本当にないので、そういうことをしてほしい意見だとか、本当に今回初めてですね、A4版で裏表3枚ほど、町長が代わられて、みんな期待をしているのだなということは、私も実感しました。どうぞ、もしよろしければ読んでいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○石原総務課長

今のは、事務局のほうでお預かりしていますので、また、町長に渡したいと思っています。

今のお話だけで、何か町長からコメントがありましたら。

○石原町長

選挙時に政策として、まちづくり7つの政策事業を掲げて、その中で公園の整備とか、中学生の短期留学とか、給食費の無償化とか、いろいろ掲げております。先日の12月議会でも、たくさんの議員の皆様にご質問をいただいて進捗状況がどうなっているのだかというような話をしております。

個別個別に、今進めている状況ですので、ぜひそういう会の皆様とお話する機会を、年明けでも、うちはまちづくり推進課が担当でございますので、段取りをしまして、させていただければ、直接ですね。もちろん読みますけれども。直接意見交換できればと思ってございますので、また御連絡を、参加者を募りたいと思います。ありがとうございます。

○石原総務課長

ありがとうございました。そのほかに委員の皆様から、その他としてありましたら、よろしいでしょうか。

それでは、ちょうど1時間20分ほど経ちました、長時間ありがとうございました。

会議のほうは、一旦これで閉じさせておたさきたいと思ひます。本当に活発な御意見等ありがとうございます。特に令和5年度の予算が必要なやつも、いろいろ事務局からありましたので、私たち総務のほうでも、令和5年度の予算獲得とか、今からすぐ交渉に入りますので、計画をきっちりと立てて進めてまいりたいなと思っております。それでは、最後に挨拶で締めたいと思ひますので御起立をお願いいたします。

これをもちまして、令和4年度第1回総合教育会議を終了いたします。お疲れさまでした。

閉会 午後4時20分